「神戸地区の戦争の傷跡」の案内看板と慰霊碑

昭和２０年（１９４５年）４月７日、神戸（かんべ）地区に約１０発の爆弾が投下され、多くの死傷者を出す被害を受けました。その爆撃の傷跡が、今もこの地区に残っています。

案内看板によると、この日、空襲警報が発令されたため、神戸国民学校の児童は、先生の付き添いで自宅に帰されました。その後、先生たちは学校を守っていましたが、Ｂ２９というアメリカの爆撃機が来たというので、教頭先生が女の先生たちを連れて運動場の隅にあった防空壕に避難しました。

その直後、爆弾が防空壕を直撃し、避難していた７人の先生方全員が亡くなられました。

慰霊碑は、昭和４２年神戸小学校 PTA のみなさんが中心となり建てられたものです。

現在、神戸小学校は別の場所に移転していますが、慰霊碑はこの場所に残り、毎年、慰霊祭が行われています。

また、爆撃のすさまじさを表す被弾痕が民家のレンガ塀や、神戸乃神社の拝殿の額に残っており、案内板にはこれらの位置図や、この地区で亡くなられた戦没者慰霊碑についても記されています。

安全誓いの塔

１９７６年（昭和５１年）、子ども会のハイキングに参加した９歳の子供が水死するという事故が発生。ご両親が引率者の方に対し、損害賠償を求める民事訴訟を起こされました。所謂「津子供会訴訟」「ボランティア裁判」と呼ばれ、わが国で行われた初めてのボランティアに対する損害賠償訴訟です。

これに対し、津市子ども会育成者連絡協議会（現　津市子ども会育成者連合会）は組織をあげて支援を行い、全国から賠償費用を上回る浄財が寄せられました。

そこで、同会は募金の趣旨や寄せられた方々の思いから、「子どもたちの願いに応える活動を助長する一方、再び、こうした事故をくり返さないためにも安全への意識を高めることの一助になれば」（建立時に配布された「安全誓いの塔」案内パンフレットより抜粋）と募金の残余額を充て、「安全誓いの塔」を建設されたそうです。この意思はこの塔の**碑文**にもしっかりと刻まれています。

なお、この塔の建設場所が当センターとなったのは、子ども会活動を始め多くの青少年活動が行われ、それに携わる熱意あるボランティアの方が多く集う場所であるということからだそうです。

碑文　（全文写し）

安全への誓いを込めて

子どもは、いつでも、未知の世界をのぞいてみたいという好奇心に満ちあふれています。

子どもは、どのようなむずかしいことにも挑戦してみたくて心がおどっています。

そして、自分の手で触れ、汗を流し、成しとげたという喜びを感じ、成長していきます。

この子どもたちの果てしない冒険の心を守り育てていくために、勇気あるボランティア活動は進められなければなりません。若く、尊い生命を守るために、安全への誓いをこめながら・・・

私たちは、同じ思いの全国の子ども会関係者をはじめ、多くの人々から寄せられた浄財の一部をあて「安全誓いの塔」を建てました

昭和五十九年三月吉日

津市子ども会育成者連絡協議会